

揖斐高校「学習成果発表会」
が開催されました

1月14日(土)、地域交流センターは
なももで、揖斐高等学校の学習成果発
表会が開催されました。

今年のテーマを「躍動く将来の夢へ
」とし、卒業を控えた3年生の生徒
が、学科やコースごとに取組や作品を
発表しました。

ステージでは、地元企業と連携、協
力を得て行っている「揖斐高シヨップ」
や「デュアル実習」(企業実習)の紹介、
着物の着付けや創作衣装のショーがあ
り、会場を魅了していました。

また、作品の展示などもあり、多く
の来場者の目を楽しませていました。



▲被服コースの創作作品発表

新入学児童生徒に新入学応援金
(地域振興券)を交付しました

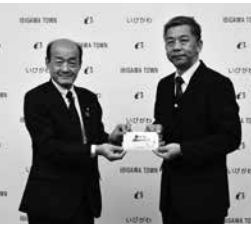
1月18日(水) 揖斐川町役場公室に
おいて、岡部町長から、揖斐川町校長
会長の竹中清水小学校長へ新入学応援金
(地域振興券)が交付されました。

町では、小中学校入学準備の応援と
して、町内在住の新入学児童生徒を対
象に、平成28年度から地域振興券を交
付しており、8回目を迎えます。

岡部町長は、「希望をもって新入学
を迎えるために、文房具などの準備に
活用してほしい」と保護者の皆さんへ
のメッセージを述べられました。

竹中校長会長からは、「例年、保護
者の皆さんも喜んでおり、町からの応
援を感謝しています。保護者の皆さん
への交付の際に、町の思いを話したい」
と話がありました。

町内各学校において、1月から2月
に行われた入学説明会などで交付され
ました。地域振興券は登録店舗で7月
末まで使用することができます。



▶交付の様子(岡部町長
⑤ 竹中校長会長⑥)



▶各学校での交付の様子

中学生・高校生海外派遣
事業を実施しました

1月19日(木) から27日(金) までの
9日間、交流都市であるアメリカセン
トジョージ市で町内の中学生および高
校生の代表22人による派遣事業を実施
しました。

派遣団は、地元の中学校(ミドルス
クール)で、授業参加、お互いの町の
良さの紹介、朝食づくりやゲーム等の
活動を通して、現地生徒と交流を深め
ました。また市役所や教育委員会の訪
問、大学や国立公園見学などを通し、
セントジョージ市について学ぶことが
できました。そして、宿泊や週末の活
動は、現地のホストファミリーにお世
話になりました。子どもたちは9日間
の活動を

通して、
現地の方
と積極的
に関わり
文化の違
いにふれ
ることが
できまし
た。



▲ディクシーミドルスクールを訪問した派遣団

地域交流センターまつりを
開催しました

2月4日(土)、5日(日)の2日間、
地域交流センターまつりを開催しまし
た。

会議棟では絵画、写真、文芸、手
芸、盆栽、生け花などの作品展示に加
え、カプラ体験や読み聞かせを行いま
した。

5日にはホールで琴や太鼓の演奏、
合唱、義太夫など多彩な舞台発表があ
り、観客を魅了していました。

交流センターでは令和5年度のサー
クル登録の申請を受付中です。詳細に
ついては地域交流センターへお問い合
せください。

地域交流センターはなもも
TEL 22-1120



▲舞台発表の様子



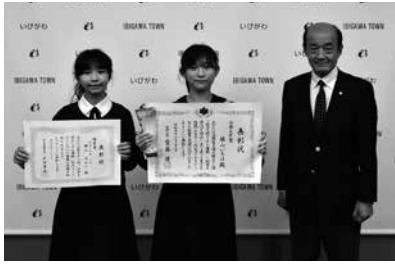
▲人形劇の様子

第72回「社会を明るくする運動」
作文コンテストに入賞しました

1月5日(木)、揖斐川町役場公室で、第72回「社会を明るくする運動」岐阜県推進委員会が主催する作文コンテストにおいて入賞した2名が、岡部町長に受賞報告を行いました。

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。作文コンテストには、岐阜県内から多数の応募があり、揖斐川町からは、小学生の部で谷汲小学校の植山あおいさん(6年)が優秀賞、岐阜保護観察所長賞に、中学生の部で谷汲中学校の植山いろはさん(3年)が最優秀賞、岐阜県推進委員会委員(岐阜県知事)賞に選ばれました。いろはさんは、全国審査でも最優秀賞の法務大臣賞を受賞しました。

岡部町長は、「声かけ、手を差し伸べるという思いを、これからも大事にしてほしい」と挨拶しました。受賞おめでとうございます。



▲受賞した植山あおいさん(左) 植山いろはさん(右)

中学生の部 最優秀賞(法務大臣賞)
最優秀賞 岐阜県推進委員会委員長(岐阜県知事賞)
挨拶でつながる社会

揖斐川町立谷汲中学校三年 植山 いろは

私が住んでいる地域のおばあちゃんパワーはすごい。おばあちゃん達は、私達を見ると、すぐに「おはようございます。」と大きな声で挨拶してくれる。私も負けじと大きな声で「おはようございまーす。」と返す。学校から帰ってくると、「お帰り。」と迎えてくれる。私は、見守られているようで安心する。また、おばあちゃんネットワークは強く、この地域の事なら、おばあちゃん達に聞けば大抵わかる。私のこともよく知ってくれている。「何で知ってるの?」と驚くこともあるが、自分を気にかけてくれていることは、嬉しい。さらに、いつも登校を見守ってくれるおばあちゃん、私が朝集合場所に行かないと、私の妹に、

「今日は、いろはちゃんはどうしたの?」

と聞き、心配してくれる。私達が安心してここに暮らしていられるのは、おばあちゃんパワーに支えられているからだと思う。「明るい社会」とは、こういう社会のことを言うのではないだろうか。このおばあちゃんパワーには、もちろん私の祖母も入っている。私は小学生の時、祖母から更生保護女性会のことを教わった。祖母は、更生保護女性会の一員だった。小中学校を回ってお話をしたり、公民館祭りの時に啓発運動をしていたりした。その時に祖母が話してくれた「みんな一人一人が大事な存在なんだよ。」という言葉が今でも心に残っている。祖母が作ってくれた更生ペンギンのホグちゃんやサラちゃん、我が家のかわいいマスコットだ。ホグちゃんやサラちゃんを見るたびに、祖母の言葉を思い出す。

私が安心できる地域に住んでいる一方で、社会では、残酷で悲しい犯罪がなくなるのが現状だ。私は、犯罪のない明るい社会にするためには、人と人とのつながりがとても重要なカギだと思う。

私は、学級委員に立候補したことがあるが二度も落選した。小学生の時落ちたことがなかったから、落ちたときはみんなに認められていない気がして、クラスで自分一人だけが取り残されているように感じた。もう何もやる気が起きなかったし、何かをやっても誰かに笑われるような気がして苦しかった。落ちたことが悔しくて、怖くて、不安になって泣いていた時、担任の先生が声をかけてくれた。

「今、いろはさんはとても悔しいし、不安になっていると思う。でもいろはさんはできる子なんだから、ここでなにかもあきらめるんじゃないかって、その悔しさをバネにして、次頑張る原動力にしたらいんじゃないかな。」

私はこの言葉に救われた。自分を見守ってくれる人がいるんだと胸が熱くなった。自分が独りになった気がして怖くて流していた涙は、嬉しさに涙に変わった。

犯罪は、ある特別な人たちが起こすものではない。誰にでも、犯罪者になってしまう可能性はある。そのきっかけは人それぞれだ。でも、そのきっかけから犯罪へと向かわないためには何が必要なのだろう。私は、先生が支えてくれたから立ち直ることができた。誰もが失敗や不安になる経験をし、自暴自棄になってしまふことはあるだろう。でも、そこでそのまま犯罪に手を染めてしまふか、立ち直って次に進むのか分かれ道となるのは、支えてくれる人がいるか、またその変化に気づいて手を差し伸べてくれる人がいるかだと思ふ。相手の変化に気づくにはどうしたらいいのか。私は知っている。これこそ、おばあちゃんパワーだ。そう「挨拶」をすること。

生徒会で人権についての取り組みを行うことになったとき、その一つとして「挨拶」が挙がった。

「どうして挨拶が大切なんだと思う?」

と先生に聞かれ、私はハッとしました。私は、それまで、挨拶はマナーとしてやるものという風にしか捉えていなかった。どうして挨拶をするのか、そんな事一度も考えたことがなかった。考えてみると、おばあちゃんたちの挨拶から安心感が得られる理由がわかった。「おはようございます。」といわれたら「おはようございます。」と返す。短い言葉のコミュニケーションの中にも自分を見てくれている人が近くにいるということがわかるし、自分の存在を認めてくれていると実感できる。それが安心できる理由だ。また、挨拶は気持ちのバロメーターのようなもので、気持ちや挨拶の声音に現れてくる。だからちよつとした変化に気づくきっかけにもなり得るのだ。

私は、自分が住んでいる地域が大好きだ。お互いのことをよく知っていて、何かあれば助け合う。誰もが安心して暮らすことのできる場所があるっていいなと思う。このような場所を社会全体にも広めていくために、私は挨拶を通じて人とつながり、誰かのちよつとした不安に気が付いたら、先生が私にしてくれたように、その人に手を差し伸べ、支えられるようにしていきたい。